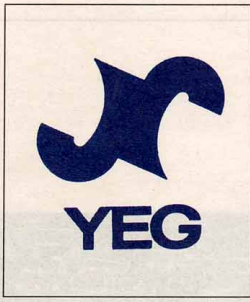


翔生 (しょうせい)

Symbol Logomark これまで各地商工会議所で使用されている商工会議所マークの下に、ゴシック体でデザインしたシンプルで馴染み易いロゴマークとなっています。ロゴは、商工会議所青年部の英語名 (Young



発行 全国商工会議所青年部連合会
東京都千代田区丸の内3-2-2
日本商工会議所中小企業振興部内
☎03-3283-7847

編集 広報委員会

平成8年 (1996年)
3月1日号
通巻 第20号
(年2回 3月・11月発行)

Entrepreneurs Group) の頭文字をとったものですが、同時に商工会議所青年部の持つコンセプト (若さ、情熱、広い視野をもった経営者 = Youth, Energy, Generalist) を表しています。

ご・あ・い・さ・つ

CIN (商工会所情報 ネットワーク) 構想実現に向けて

日本商工会議所会頭 稲葉興作



商工会議所青年部の皆様方には、日頃から、地域を支える経済人としての使命感と責任感をもって商工会議所の諸活動に積極的に取り組んでいただいております。厚くお礼申し上げます。さて、わが国が政治・経

濟両面において歴史的転換期にある中で、地域総合経済団体である商工会議所への期待と役割は益々大きくなってまいります。私どもは従来から商工会議所の使命達成のため地域振興や産業発展の支援に努めることも

に、商工会議所の活動基盤の整備を進めて参りましたが、今後とも、変貌する地域の態様や商工業者のニーズに、しっかりと応えていかなければならないと存じます。例えば、日商では現在、21世紀を見据えた構想に本格的に取り組むこととしております。それは、各地商工会議所の情報化を推進するT.O.A.S. (トータルO.A.S.システム) を基盤とし、全国513商工会議所157万会員の連携強化を図るためのCIN (商工会議所情報ネットワーク) を実現

しようとする構想です。各地におきましてもインターネット等の新しい情報ツールを活用した様々な試みが次々と動き始めております。日本を含めて世界が新たな地球作りに取り組み始めている今日、青年部の皆様方におかれましても、ベンチャー精神をもって企業経営に取り組みいただくとともに、地域の将来を担うリーダーとして、新しい視点と新しい発想で地域経済社会の活性化を進めていただきたいと考えております。現在、全国には408の

「出会い」から「交流」そして「連携」へ

平成8年度商青連会長 松田祥吾



社会の枠組みが、大きく変わり、まさに「大変な時代」と言われております。私も現状認識として強くそのように思っています。

す。今日のような経済環境の中で、真摯に、しかも積極的に親会議所との関係を考へるべきではないでしょうか。

しかし、そのような時代こそ青年と言われる者が、既製の概念や慣習にとらわれないこと、行動すべきだと思えます。まして、私達、商工会議所青年部は、その網羅に会議所活動の一

杯頑張りしたいと思います。どうぞ、ご協力の程、宜しくお願いいたします。

平成8年度、全国商工会議所青年部連合会(商青連)の会長という重責を務めさせていただきます。

戦後50年という節目の年度を終わりに、新たな半世

度改め、身のひきまする思いです。

ここ数年、政治・経済・

は、そろそろ「出会い」か

商青連役員		氏名		青年部 (県名)	
会長	松田 祥吾	長崎	大宮	埼玉	埼玉
副会長	菅垣 正弘	新潟	八戸	青森	青森
専務理事	竹内 幸一	高知	鳥取	徳島	徳島
プロック代表理事	河井 達志	鹿児島	鹿兒島	鹿児島	鹿児島
	入倉 伸一	北海道	岩見沢	北海道	北海道
	稲田 正二	青森	八戸	青森	青森
	伏江 健児	静岡	掛川	静岡	静岡
	田中 雅人	岐阜	関	岐阜	岐阜
	川瀬 雅人	滋賀	彦根	滋賀	滋賀
	里見 泰男	鳥取	倉吉	鳥取	鳥取
	松川 裕司	香川	丸亀	香川	香川
	茂 茂	長崎	佐世保	長崎	長崎
総務委員長	木川 総一郎	千葉	松戸	千葉	千葉
研修第1企画委員長	足立 善信	大阪	吹田	大阪	大阪
研修第2研修委員長	児玉 龍之介	宮崎	小林	宮崎	宮崎
広報委員長	鈴木 肇	神奈川	藤沢	神奈川	神奈川
特別委員長	鈴木 禎夫	福島	郡山	福島	福島
理事	小林 一磨	北海道	滝川	北海道	北海道
	花坂 康太郎	宮城	塩釜	宮城	宮城
	相原 功	秋田	横谷	秋田	秋田
	佐々木 正光	山形	米沢	山形	山形
	米沢 雅行	茨城	石岡	茨城	茨城
	溝口 光幸	栃木	栃木	栃木	栃木
	若菜 秀夫	群馬	群馬	群馬	群馬
	小暮 高史	群馬	群馬	群馬	群馬
	江藤 雅治	埼玉	埼玉	埼玉	埼玉
	萬谷 正幸	石川	石川	石川	石川
	加賀 加賀	福井	福井	福井	福井
	中野 清二	長野	長野	長野	長野
	東浦 右智	愛知	愛知	愛知	愛知
	奥村 完司	三重	三重	三重	三重
	松山 茂	福井	福井	福井	福井
	吉本 博	福井	福井	福井	福井
	吉本 博	福井	福井	福井	福井
	黒崎 功	福井	福井	福井	福井
	難波 裕	福井	福井	福井	福井
	北島 重利	徳島	徳島	徳島	徳島
	海地 元明	徳島	徳島	徳島	徳島
	森川 雅弘	徳島	徳島	徳島	徳島
	井上 康彦	高知	高知	高知	高知
	西村 康彦	高知	高知	高知	高知
	宮川 卓久	高知	高知	高知	高知
	樋口 良一	高知	高知	高知	高知
	佐久本 晶子	高知	高知	高知	高知
	安本 和雄	高知	高知	高知	高知
	辻 正敏	高知	高知	高知	高知
直前会長	岩田 燕	新潟	新潟	新潟	新潟
	津 三重	山口	山口	山口	山口

■平成8年度商青連役員

(敬称略)

大宮全国大会報告

第15回商工会議所青年部全国大会
埼玉県商工会議所青年部連合会

会長 大村晴利

全国大会 最大の4000名登録で盛り上がる



「直接交流」「直接実感」の開催地キャッチフレーズのもと、『第15回商工会議所青年部全国大会・大宮大会』を大成功のうちに無事終了することが出来た。

これも偏に全国YEGメンバーの友情のお陰であり、協会長を始めとする商青連役員の皆様方のご支援、ご協力を頂いた賜と深く感謝申し上げます。

主管をさせて頂きました埼玉県商工会議所青年部連合会にとりまして、この全国大会開催は永年の「夢」であり、どうしても実現させなければならぬコンベンションでありました。大宮市政施行55周年、大宮YEG設立10周年という節目の他に、政令指定都市実現へ向けての大きな第一歩としての意味合いもありました。5年前から誘致活動をスタートさせ、商青連への出向

者が毎年変わるなか、常に誘致のお願いを言い続けて来た数多くの先輩の力に感謝すると同時に、内諾を頂いてから2年間に及ぶ準備の期間、埼玉県連1400余名の英知と汗と涙を積み重ね、より強力なパワーに変換できたことが成功への最大の要因であったと思っております。

バブル崩壊と同時に会場と考えていた「埼玉新都心・埼玉メッセ」の完成が延期され、主会場探しから新たに始めなければならなかったこと、大阪でのエイベック国際会議開催の為に日程の変更を余儀なくされたこと、皇室招聘の夢が叶わなかったこと、稲葉日川会頭・土屋埼玉県知事のスケジュール調整が開催日直前まで決まらず、式典がまさに秒単位の進行をせざるを得なかった事等々。今となってみれば全てが懐かしい思い出となっております。

しい思い出となっております。また、この大宮大会では15回以降の全国大会の模範としていただけるように新しいスタイルの提案をさせていただいたつもりです。

その1が、阪神淡路大震災で被害にあわれた方々への「黙禱」でありました。色々な方々から意見を伺ったのですが、昨年との長崎大会以降の1年間の時の流れ、時代背景として、ど

うしても外すことは出来ませんでした。前年開催地の長崎から受け継いだ「全国大会スピリット」を大宮で開花させるといふ願いを込めた「大会旗」の入場は「YEG連携」を提唱する協会長のスローガンの意を汲んで取り入れました。そして首都圏という新しみの表現として「尾崎紀世彦」による国歌独唱に表すことが出来たと思っております。

ります。しかし、その反面には行き届かなかったところ、ご迷惑をおかけしてしまっただころも多々ありました。びを申し上げお許しを頂きたいと思っております。

本日に、お蔭様で皆様のご協力が得られ、大会史上初の4000名に達する程の登録者数と317単会という参加単会数があったことは、主管をさせて頂いた

埼玉県商工会議所青年部連合会の誇りであり、最後に、貴重な体験や経験をさせて頂いたこの全国大会開催に感謝し、更なる発展を期待して次年度開催地の奈良YEG並びに平成9年度の徳島YEGに心からエールを送りたいと思っております。本日にありがとうございます。

日商・稲葉会頭との懇談会



商青連 専務理事
石原 将宏

商青連出向者にとって、日本商工会議所会頭との懇談会は大きな楽しみの一つであります。日本の経済界を代表する顔、稲葉興作会頭と懇談するこの1時間余りの貴重な時間をどの様にはこぶか、その進行役を務める私にとって大変緊張を伴うものです。

初代、日商の会頭を務められたのは、浪沢栄一翁。日本に、商工業者の世論を代表する機関として、欧米に習って創設されたと聞きます。この懇談会で全国の若手商工業者を代表する声を会頭に聞き取りました。また、会頭から見識の一端示唆に富むお話しをお聞きできたら、共に、有意義な時間とすることができるとあります。

参加者は、協会長以下24名でした。伊勢崎の島田利春君、小田原の鈴木伸介君からはそれぞれに商われている商品を提供をいただき、話の切り口にさせていただきました。

質問は、東海ブロック代表理事、板垣清志君の創業者支援について、中地区副会長、角口賀敏君の中小企業の株式公開の問題点について、研修第一委員会委員

長、長谷川義信君の地場産業万物を取り巻く環境への対応について、松田祥吾副会長女性のバート社員の税制と大店法について、河井達志特別委員会委員長からはYEG連携事業についてでありました。それら多岐にわたる質問に、会頭は丁寧にはユーモアを交えお話しになりました。懇談会は和やかなものになりました。

ただ、今年度提唱している連携事業については、自企業の経営自体多難な時代に「センチメンタルな連携では駄目だ」と指摘されました。反論もありませんが、と言う言葉が締めくくられました。説明申し上げご理解いただきたいところでした。

会頭の言葉の響きに、日本経済の置かれている厳しい状況を踏まえ、若手経営者への叱咤激励を受け、期待の大ききともどかしさを感じられたところに、先達としての愛情を感じました。

今後、この懇談会が回数を重ねる中でより一層、浪沢栄一翁が目指された商工会議所設立の精神が発揮される場となることを次年度出向される皆様へお願いし、ご報告とさせていただきます。



新宮(和歌山)で中央研修会

「地域連携」テーマに活発討論!

2月7、8日、和歌山県新宮市において、第13回中央研修会(新宮市民会館他)が開催され、参加単会数214、登録者数803名(いずれも主管単会を含みます)を数えた。

研修は、式典に始まり、辻正政会長による「研げ感性、拡げよフィールド YEG連携時代」をテーマとした基調講演、松田祥吾次年度会長の講演「平成8年度商青連活動について」が行われた。

次年度開催地の紹介に続いて、今年度のテーマ「地域連携」に沿った講演「新しい国土軸」(講師・三浦真紀国土庁総合交通対策課長補佐)が行われ、国土軸と将来的な地域連携の在り方を示唆した。地域連携の事例発表として、秋田 YEG、津 YEG、高知 YEG、鹿児島 YEG の報告と続き、休憩の後、清水浩志郎氏(秋田大教授)、三浦真紀氏(社会長を兼ね)、賢木新悦商青連副会長のコーディネートで、パネルディスカッションが行われた。

会場を新宮市民会館から総合体育館に移動後大交流会へ。ここでは、地元の名産「めはりずし」「サンマずし」、地元 J.C の協力による鯨料理などが振る舞われ、マクロの一刀づくりでムーロは最高潮に達した。

さらにこの後、新宮市の飲食街と勝浦温泉に分散、それぞれミニ交流会が開かれ、コミュニケーションが果

図られた。

研修2日目は、予定されていた瀬島龍三氏が急な公務のため欠席、その代理として伊藤忠商事(株)顧問の森岡正憲氏による記念講演「混迷の時代における諸情勢」が行われ、盛会のうちに閉会した。

人口3万5000人規模の都市で行う初めての中央研修会であり、また、交通アクセスなどの面で悪条件下での開催であったが、約1年半にわたる地道な PR 活動と、開催1ヶ月前に各単会会長への電話要請などが実を結びとともに、「地域連携」という実践的テーマに対する会員の注目度が高く、うまくかみ合った結果、成功裡に終わりました。



優秀10誌を表彰

平成7年度会報コンクール

商青連加入の単会等を対象にした「平成7年度会報コンクール」が行われました。今年度は応募総数73点、全国の単会及び県連より応募頂き、入賞作品の表彰が2月の会員総会の席上と行われました。

審査として、商青連の正副会長ならびに商青連広報委員会により、必要な情報をいかにタイムリーに会員に提供しているか。また、読みやすさ・レイアウト・紙面内容等を審査基準とい

今回、応募頂いた作品の中には、入賞作品以外にもたくさんのお優れた作品があり、レベルの高いコンクールとなりました。

会員相互の連絡・コミュニケーションの場としての機能的あり方と、我々青年部をとりまく皆様への広報的なあり方など、会報は私たちの活動になくてはならない情報発信のひとつであります。ぜひ素晴らしい会報を今後も創りつけていただきたいと思いま

平成7年度商工会議所青年部会報コンクール

入賞作品

(優秀作)

青年部	都道府県名	会報名
秋田	秋田県	YEG NEWS あきた
山形	山形県	ザ・青年部
高岡	富山県	Active 祝文都市 高岡 なんせやらんまいけ!
中野	長野県	NEWS
半田	愛知県	縁(えにし)
武生	福井県	ほやほや
奈良	奈良県	NEWS なら太鼓
下関	山口県	颯海 (KENKA! PRESS)
丸亀	香川県	SE INENBU NEWS
豊前	福岡県	どけちこげち PURE TOWN

打てば響く太鼓のように!

商青連全国会報コンクールを5回連続受賞して『NEWS なら太鼓』

奈良商工会議所青年部



「おーい、この字何て読むんやー!」だれや、この文章書いたのは、意味通じないぞー!」「ワー! 原稿にコヒー!」こぼしてしましたー!」ワイワイガヤガヤ...我が広報委員会の「こま」でした。こんなドタバタ劇を繰り返しながらも、どうにかこき着いた発刊日。そしてイチかバチかの会報コンクールへの申し込み。優秀賞が頂けるなんて涙が出るほど光栄です。これもひとえに、先輩諸兄がこれまで培われてきたご努力と関係各位の皆様のご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

私達の「NEWS なら太鼓」は、昭和62年に青年部創立10周年を記念して発刊されました。そして今年で9年目を迎えることとなります。「なら太鼓」といえばおよそ広報紙らしからぬ名前前に思われますが、創刊当時、諸先輩方が百花論争の末、打てば響く太鼓のように...ということでの今

「なら太鼓」という名前に決定したと聞かされております。もともと、これまで引き継いでまいりました奈良 YEG 有志としての「太鼓隊」もこれをきっかけに再興されたことはいまでもありません。

さて、ご承知のように商青連全国大会奈良大会が、いよいよ本年11月に開催されます。この一大イベントに向けて、われわれメンバーは、今まさに一致団結し、その準備に、未体験の仕事に取り組んでおります。心ふるさと、奈良。

歴史の宝庫・奈良。われわれメンバーは、「心の接待」をモットーに「ああ奈良に来て良かった」といわれるような大会を目指していきたいと思っております。

今回の受賞を弾みに奈良 YEG はさらに熱く燃えます!

本当にありがとうございます!!

広報委員長 辻谷晴行

特集 全国各地の青年部活動レポート



『研げ感性、広げよフィールド、YEG連携時代!』

インターネットが世界を結び、マルチメディアが“生活革命”をもたらすであろう21世紀。でも、やっぱり人間が中心、地域が原点。YEGは全国各地で連携するヒューマンネットワークだ。北から、南から心に響く熱いメッセージが届きました。

トンネル開通で連携事業

帯広YEG●北海道ブロック

帯広と浦河では3年前からお互いの地を訪れ、それぞれの地域について理解を深めてまいりました。この向こう側ではなく隣の町になるからです。

まちづくりは青年部の行動から

湯沢YEG●東北ブロック

当青年部は昭和44年5月湯沢市商工会青年部として発足し、平成元年4月商工会議所移行に伴い、湯沢商

発展するベトナムを体感!

燕YEG●北陸信越ブロック

燕YEG(会長山崎栄一、会員83名)では2年に一度海外視察研修を実施しており、これまでに中国(広州・深圳・アメリカ・タイ・マレーシア、中国(北京・天津)を訪問し企業視察等を行ってきました。

「連携」青年3団体による “たけふ冬遊”まつり

武生YEG●近畿ブロック

武生YEGでは、暗く湿りやかな福井の市民生活を

よく遊び よく学ぶ

徳山YEG●中国ブロック

徳山YEGは今年で20年を迎えます。現在、会員数1110名、100名を越え



トンネルの開通で連携事業が進展している。



ベトナム視察研修の様子。



「たけふ冬遊」まつりの様子。

「歴史のある街」マンガで表現

石岡YEG●関東ブロック

当青年部(溝口光幸会長)は、石岡商工会議所の創立40周年記念事業の一環として、このほど「マンガ歴史遺産」を制作しました。



「マンガ歴史遺産」の完成品。

注目のイベントで中心的役割を

豊田YEG●東海ブロック



豊田市のイベントの様子。

豊田商工会議所をはじめ17団体主催により、地域経済圏の農産物・加工品及び消費活動を一気に盛り上げる市民等と産業のふれあい・交流を通じた都市の活力の高揚を目的とする「現況の国際経済環境を踏まえて、より積極的な輸入拡大を図るため、「輸入品」を強く意識して国際協力の伸張を図る」とを趣旨としてインポートフェア&産業展とよた95が、秋真っ盛りの11月に開催され3日間、延べ13万5千人の入場者と約1億円の売上高を記録しました。

集まれ、全国の龍馬ファン 「龍馬俱樂部」を設立

丸亀YEG●四国ブロック



龍馬の像。

月の名所で有名な桂浜に4年前坂本龍馬記念館が建設されました。当青年部を中心とした高知県下青年11団体の募金活動が全国の多くの皆様にご賛同いただいた(約10億円)賜物です。その節はありがとうございました。

さて、生誕160年にあたる昨年11月15日に我々は、龍馬俱樂部設立準備会を発会し、本年4月1日「龍馬俱樂部」設立に向け現在全国から会員を募集いたしております。

夏祭りは青年部「サマーフェスタ」で!

小林YEG●九州ブロック

今年で8回目となった青年部「サマーフェスタ」が、8月4日に市商連の花火大会と合同で開催されました。



「サマーフェスタ」の様子。

写真は、オープニングセレモニーで活躍してくれた、保育園園児の「踊り太鼓」です。

特集
YEG連携事業

13市町村が広域連携

八戸 YEG



青森県八戸YEGでは、南部地方の地域振興と経済発展を図る事を目的として13の市町村の商工会議所・商工会が中心となって発足した「南部圏まちづくり推進協議会」に参画した。これは地域の壁を越え、各自治体と協力して広域連携を創る一つの例であろう。その具体的事業としては、

- ①13市町村の特産品をあつめた「ナイドラヤ廻道」
- ②歴史と文化を訪ねる「ナイドラヤ廻道」ふるさと新発見バスツアー
- ③スポーツ振興を兼ねて圏域の健全な人的交流を図る「ナイドラヤ廻道」長くつアイスホッケー大会

④各市町村に伝わる「せんべい汁」一堂に食する「せんべい汁の祭典」

⑤自然と調和し美しい南部圏をつくる南部花回廊構想の展開「フラワーロードコンテスト」、「フワワフォントコンテスト」の実施等を行った。

これらは(1)地域振興(2)意見活動(3)圏域商工業者相互に連携を図るための事業を三つの柱として地方の21世紀に向かってのプロジェクトを踏まえ地域づくりと新たな経済振興のための諸事業を民間サイドで推進することを基本に展開された。

このような広域事業は各地で実施されているが課題も多く、特に官民一体となつた展開が理想ではあるが民間サイドの行政枠を超えた活動に対し、市町村行政のより一層の深い理解が必要とされる。八戸では推進協議会発足から4年を経過し、徐々にその主旨が浸透し、行政が理解を示はじめているが、まだ調整課題も多く、その壁を青年部等の力で超え、息の長い事業の進展が期待される。

目指せ「コミュニティ FM ネットワーク」

いわき YEG

福島県いわきYEGは、市としては全国一広いいわき市においてその地域に密着した生活情報、市政情報、防災情報、観光情報や地域産業の活性化情報などを36万市民の唯一の共有メディアとして「地域情報」をテーマに「FMコミュニティ」に「FMコミュニティ放送」に取り組んだ。本事業は同一地域において行政ばかりでなく青年会議所を含め他青年団体や民間有志の協力のもと、団体の枠を

超え地域活性化にチャレンジした事例といえる。この事業の実施は平成4年1月、いわきYEGより『サンシャイン21、2001年構想』のなかで地域限定FM局の必要性をいわき市長に提言したことからスタート、平成6年8月5日初めての電波を送信した。

翌年の7月から10月まで福島国体に合せ「いわき市国体実行委員会」から市民参加の秋季国体の実現と出場

選手や市民、そして訪れる方々への情報提供の役割を果たすべく業務委託を受任、地域コミュニティの交流の場として「FMネットワーク」の構築の中心となった「Sea Wave FM」いわき研究会」である。

「FMコミュニティ放送事業は、地域間の情報交換による、新しい「人」「物」「価値観」の交流連携軸を確立し、地域の「心」から「未来」に向けて、新しいメディア事業で

あります。それは市民から情報を吸収し、電波に乗せることで双方方向の情報発信が出来るようになり地域情報交流ネットワークの構築の可能性が高くなります。そしてその活用が次代を創る若者に夢を与え、「まちづくり事業」としての意義を持つものと考えます。皆さんも本事業に興味がある方は是非いわきYEGにお尋ね下さい。

「FMコミュニティ放送事業は、地域間の情報交換による、新しい「人」「物」「価値観」の交流連携軸を確立し、地域の「心」から「未来」に向けて、新しいメディア事業で

あります。それは市民から情報を吸収し、電波に乗せることで双方方向の情報発信が出来るようになり地域情報交流ネットワークの構築の可能性が高くなります。そしてその活用が次代を創る若者に夢を与え、「まちづくり事業」としての意義を持つものと考えます。皆さんも本事業に興味がある方は是非いわきYEGにお尋ね下さい。



『疎水』をテーマにスクラム

大津 YEG
京都 YEG

明治時代初期、東京還都で沈滞化した京都の街を活性化させるための方法を先人たちは考えました。その結果、明治18年に水道、発電、物流、かんがい等、多目的利用を目的とした「琵琶湖疎水事業」に取り掛かったのです。事業は5年間で完成し、世界で初の水力発電の実用化に成功、京都には電灯が付き、市電が走り、上下水道が確保されるなど、ひとことに京都の街の復興につながったのです。

それから一世紀余、時代の移り変わりと共に現在疎水は京都市の管理となり、水道水と若干の発電のみ利用されています。かつては品物を積んだ船が往来し、物流のみならず人の交通路として活用されていましたが、かつて人々が遊んだ船下りも現在は許可されず、滋賀・京都の県民や府民だけの薄いものになっています。商工業をキーワードとして地域活性化を目指す、大津・京都YEGでは平成7年5月京都市の助役さんにも乗って頂き、久しく途絶えていた船下りを再現。明治の先人が考えたように、「琵琶湖疎水」の今後の展望を含め、疎水連携事業として行政と共に、この利用促進を考え、観光産業や関連事業のより一層の発展策を練っています。





YEGビジネス交流プラザ

このコーナーは、
会員の皆様の情報交流の場として
活用していただいています。



昨年開かれた大宮の全国大会で行われたビジネス交流プラザには、大変多くの皆様の参加をいただきました。

全国の会員のネットワークを活かした営業活動・企業PRなどの情報発信にどんどんご利用ください。

新製品の紹介、販売代理店の事業などの営業活動や企業PRなど記事の掲載については次のとおりです。

●掲載申込方法

原則として、官製はがきに①「販売代理店募集」「企業PR」「交流・活動」を明記のうえ②商品名(または会社、団体名)③セールスポイント(メッセージ)④連絡先「住所、氏名(会社名)、TEL」⑤青年部単会名、氏名一を記入してお送りください。

●送り先

〒100 東京都千代田区丸の内3-2-2、日本商工会議所中小企業振興部内、全国商工会議所青年部連合会「広報委員会」宛。

●おこたわり

本号に掲載いたしましたものは、昨年のビジネス交流プラザの情報となっているものをもとにしています。

なお資料提供等の連絡につきましては、直接、当事者同士で行ってください。

(商青連・広報委員会)

企業PR・販売代理店募集

要 項	連 絡 先	電 話 番 号	単 会 名
視力回復トレーニングセンターのFCと展開	㈱タイケイ教育	0725-46-1696	和 泉
個人別オーダーメイド育毛剤	尙荘司商店	0245-53-0851	福 島
インターネット・アンケート調査	タカラ印刷㈱	0245-46-0322	福 島
筆墨書道用品販売	㈱文宝堂	0742-22-4318	奈 良
きゃびてる情報処理サービス	㈱ファクト企画	053-465-8926	浜 松
高級盆栽用肥料	㈱ソウワ	053-473-2690	浜 松
長崎チャンポン・皿うどん	㈱みろく屋	0958-46-3698	長 崎
EMセラミック商品	丸石窯業原料㈱	0581-82-2416	瀬 戸
DIY販売・水処理	ダイキ㈱	0899-75-1111	松 山
絵ローソク製造販売	小池ローソク店	025-381-3044	亀 田
金属製品及びパーツ製造販売	㈱日本メタルワークス	0256-63-3611	燕
ユニークなカタログ販売を全国に展開・取り扱い販売店募集	STネットワーク新宮販社	0735-23-1248	新 宮

めざせ3万人の連携軸!

商青連副会長 賢木新悦

平成7年度、辻止敬会長はYEG連携を唱え、4月から全国行脚を始め、1年過ぎようとしている。世界から絶賛された日本の経済の高度成長も、バブルの崩壊以来、瀕死の重傷を負っている。地方都市の中心商店街の空洞化が進み、コミュニケーションの場としての街がなくなり、その土地の文化が消える危機に陥る。製造業においても円高や高い人件費で国際競争力を失い、企業の存続に危険

信号が灯っており、中小零細企業にとって厳しい状況である。しかも、厚生省の人口推移によると、21世紀に向けて急激カーブでの人口減が予想される。この事は高年齢化が進み、税金不足や社会保障負担等大きな社会問題に成りかねない。こうした中、我々中小零細企業を経営している青年企業人はどうすればいいのか。商青連は連携を提案した。高速交通網の整備が進み、余暇時間が増え、情報

受発信の量が多くなると人々の交流が盛んになる。我々はYEGというネットワークを使い、交流から連携へと発展させ、地域活性化や企業の展開をはかるべきである。手法の一つは、隣接する市町村との連携である。一市町村で出来な、事業や公共施設の無駄を無くす事は、隣接市町村が一体となつて進める必要がある。また、自企業にとって業務の提携や合併・情報交換

などは、隣接YEGと積極的に行うべきであると思う。その二つは、全国4008単会と3万人との連携である。YEGの運営にはそれぞれ悩みがある。全国のネットワークを利用して事業の事例や、歴史文化の類似したYEGの情報交換、企業間の共同仕入、経営のノウハウの勉強会の共同開催等、YEGの積極活用が期待される。YEGだからこそ交流連携が出来るのです。その要素として、①行政の壁がYEGにはない。②グループな視点がある。③ベテラン・ニュービジネスに取り組んでいる。④ファットワークが良い。⑤遊び心

がある。ただ、心配が無い訳でもない。それは都市の大小や産業力の強弱によって、スボイル現象が起こる事である。両都市や両企業が互いに助け合つてこそ良好な関係が続く。また、地域のアイデンティティや企業のアイデンティティがなければ、役割分担による連携は厳しいという事である。是非自分の住む地域の誇れる地域資源を見つけてほしいものである。間もなく訪れる21世紀。その時に安心して快適に過ごせる地域を築く為に、連携事業に取り組んでほしい。

ヒューマンネット未来にアクセス、

集えまほろば！ YEG

平成8年度全国大会は奈良市で

平成8年度「第16回商工会議所青年部全国大会」は奈良県商工会議所青年部連合会主催のもと、奈良市において開催させていただきます。

有名な「法隆寺」、奈良公園の「鹿」、「正倉院」、「狂言・能」などの幽玄の世界、数えきればきりがなくいくら仏教美術や文化史跡、名産品があるのです。

万葉のふるさと「奈良県」はかつて日本の都があった藤原京・平城京を擁し、日本文化の発祥の地として、今もその歴史と伝統が息づいて

成を間近に控え、歴史と文化と先端技術が調和した「未来都市、奈良県」の創造がテーマとなっているのです。世界の人々が集いあえる、心豊かなコンベンション都市「奈良県」を目指して、今「21世紀の都づくり」が始まっているのです。

国内経済は空洞化、国際化、高度情報化、高齢化等、これまでに経験のない厳しい環境におかれ、ますます企業経営の方向づけが難しい世の中になって参りますが、企業と地域社会の次代



大会実行委員長 乾 安彦

を担う青年経済人同志が互いに交流を深め連帯の輪を広げることにより、豊かで活力のある次の時代が創造できるのではないのでしょうか。

故きを温めて新しきを知る。どうかこの日本のふるさと「奈良県」へお越しください。何か新しい発見、新しい奈良県を見つけ下され、私たちが心をこめてお待ちしております。

1996年.11月14日(木)~16日(土)

- 主催/全国商工会議所青年部連合会・日本商工会議所
- 主管/奈良県商工会議所青年部連合会
- 開催地青年部/奈良商工会議所青年部



一年間、連携推進で奔走!!

平成七年度会長・辻 正敏

「改革の時」から「明日への創造」の時代を経て本年度商青連は、自律(立)、行動、そして連携をキーワードに「研げ感性、拡げようワールド YEG 連携時代」をスローガンといたしました。連携は、まず自企業と存立基盤である地域の自律(立)から始まり、今までの枠組みを越え、広く情報発信していく中、その糸口が必ず存在すると確信し活動いたしました。

所をはじめとして、延べ120を越える街を訪問させていただき、いろいろなことを教えていただきました。また、新しい流通形態を見せられた「米国視察研修」それぞれの思いを抱いた「各地ブロック大会」、少数対象で稲葉日商会議所命名の「翔生塾」、初めての頭産省の後援を得、4000人の参加をいただくなか、物産展、ビジネス交流プラザでの「全国大会」、全国の YEG 会長他が集まっていた

だき連携の愛情と次年度体制への継承を行った和歌山県新宮での「中央研修会」、素敵な全国の会報が集合した「会報コンクール」、YEG 活動をより円滑に行うため最後まで活発な意見交換の行われた「規約改正」、通年わたった「YEG 連携事業」の推進活動、そして本紙「翔生」の発行等々、内外にアクティブに活動した組織改革元年でした。

4人体制になった副会長、商青連運営の要となった専務理事、ブロック大会の推進役となったブロック代表理事、事業完遂に精力をつぎ込んだ委員長、委員会や役員会を支えた理事の皆様、要点を突いた総評の監事、そして貴重なご意見をいただいた直前会長・顧問、増大する事務量に嫌な顔一つせず取り組んでくれた日商事務局の皆様、最後に商青連に厚い声援と多大なご協力をいただいた全国の YEG の皆様により御礼申し上げます。ありがとうございました。

初出向で組織等ゼロからの勉強でした。全国大会・中央研修会開催地決定規則は良い方向だと思えます。ご協力ありがとうございました。

阿部和夫(湯沢)

古泉委員長のものと、楽しい委員会でした。皆様のおかげで無事一年終了しました。ありがとうございました。

橋本安彦(久留米)

原稿依頼した皆様、ご協力ありがとうございました。一年間、楽しい広報委員会でした。

溝渕裕司(丸亀)

大西 栄(美幌)

社会長を始め、多くの人達と出逢い色々な事を学びました。今度は自分自身が発信する事と考えます。本当に楽しい一年でした。ありがとうございました。

大海に 足を運ぶも 君の意志 何を掴むや 翔生の友 小杉善信(武生)

古泉幸一(亀田)

感謝致します。

